- 5 川崎市における蚊の幼虫および成虫の調査成績
○佐藤英毅（川崎市衛研）、杉本徳子、佐野孝祐（川崎区役
所保健福祉センター）

Distribution and seasonal occurrence of mosquitoes
in Kawasaki City
Sato H., Sugimoto N., Sano K.

本市では日本脳炎対策事業の一環として1956年から継続して蚊の発生動態を監視しており、2001年までのライト・トラップによる成虫の捕獲成績については第53回衛働大会（東京）で報告した。ここでは、それ以後の成績を追加して報告する。2002年に捕獲された蚊成虫は2属5種337個体であった。2001年は3属6種471個体であったのでやや減少している。最も多く捕獲されたのは *Culex pipiens* の281個体で全体の83%を占め、次いで *Aedes albopictus* 44個体（13%）、*C. tritaeniorhynchus* 9個体（3%）、*C. bi-taeniorhynchus* 2個体、*C. halifaxii* 1個体であった。前3種は昨年よりウエストナイル熱、*A. alb.* は一昨年よりデング熱のウイルス分離に供している。幼虫は2003年6月から市内の公園、住宅街の敷地域で雨水樹などで幼虫調査を開始したので、9月までの発生状況を予報的に報告する

- 7 北海道、能取湖においてドライアイストラップと人図法で採集されたアカエゾヤブカについて
○小林睦生、津田良夫、沢辺京子、佐々木年則、伊澤晴彦、二瓶直子、栗原 毅（国立感染症・昆虫医科学）

Aedes yamadae collected by dry ice trap and human bait in Notoro Lake, Hokkaido
Kobayashi M. Tsuda Y. Sawabe K. Sasaki T. Isawa H. Nihei N. and Kurihara T.

本年7月下旬に北海道東部の網走市に近い能取湖で蚊の採集を試みた。卵原内川近くの湿地で、胸部背板が赤みをおびた多数の蚊に吸血された。そこで、周辺にドライアイストラップをかけ捕集を試みたところ、少数ながらヤマダシマカを含む4種類の蚊が捕集された。また、人図法で捕集を試みたところ、10分間で16・31匹のアカエゾヤブカが捕集された。アカエゾヤブカ (*Aedes yamadae* Sasa et al., 1950) は1927年に山田によって *Aedes esoenis* var. *flavus* として報告されたが、その後、佐々らによって *Ae. yamadae* として新種記載された。人および野鳥吸血性、一時期に大量に発生することから、ウエストナイル熱媒介蚊として今後注視する必要がある。

- 6 ライトトラップの連日調査におけるコガタアカイエカ捕集数と吸血蚊率の季節的推移
渡辺 護（富山衛研）
Seasonal prevalence of captured numbers and bloodsucking rate in *Culex tritaeniorhynchus* by daily light-trap survey
Mamoru Watanabe

畜舎においてライトトラップによる蚊類の捕集調査を行うと、捕集されるコガタアカイエカは吸血をしている個体が多い。これは畜舎で家畜を吸血したコガタアカイエカが野外への脱出をはかる過程で、明るさを求め結果的にライトトラップに引き寄せられるためと考えられる。しかし、時として吸血を行った蚊が少ない場合が観察される。また、捕集数は繁殖サイクルに従って増減を繰り返すと思われるが、しばしば急激な増減を示す消長が観察される。

今回、牛舎においてライトトラップによる連日捕集調査を行っている成績をまとめ、捕集数の季節的消長とそれらの吸血蚊の割合の実態と、その要因について解析を試みたので報告する。

捕集数の急激な減少は農薬（殺虫剤）散布の影響が示唆され、吸血蚊率の減少は夜間の風雨の影響が考えられた。

- 8 野外採集蚊からのウエストナイルウイルスの検出—2003年度前期報告—
○沢辺京子・佐々木年則・伊澤晴彦・Sudipta Roychoudhury
小林睦生（国立感染症・昆虫医科学）

Detection of West Nile virus from field collected mosquitoes in 2003.
Kyoko Sawabe, Toshinori Sasaki, Haruhiko Isawa, Sudiputa Roichoudri,
Mutsuo Kobayashi

1999年ニューヨークに侵入したウエストナイル（WN）熱はその後4年間でほぼ全米に広がり2003年夏もまた多くの患者を出している。わが国においては未だ人や野鳥の感染は見られないものの、媒介蚊からの定期的なウイルス検出により国内へのウイルス侵入を監視すべき事態に直面している。そこで我々は本年度より主にドライアイストラップ法により捕集した蚊からのWNウイルス検出を計画した。捕集蚊は50匹までを1プールとしC6/36培養細胞で4・5日間培養後CPEを確認、異常の見られた検体からはRT-PCR法でウイルスRNAを検出する。吸血蚊からはTaqMan PCR法により個体別にウイルス濃度の算出を行うことにした。8月までに捕集された蚊の捕集地、種類、月毎に分類した合計約100プールと吸血蚊約80匹に対してウイルス検出を行ったのでその結果を報告する。